



## 世界の水産団体が日本政府のIUU(違法・無報告・無規制)漁業撲滅活動を称賛 業界と政府のさらなる協働を求めます

2021年4月14日

世界各地の100社以上の企業で構成される3つの国際プラットフォーム、シーフード・ビジネス・フォー・オーシャン・ステュワードシップ(The Seafood Business for Ocean Stewardship、SeaBOS)、グローバル・ツナ・アライアンス(Global Tuna Alliance、GTA)、インターナショナル・サステナブル・シーフード・ファンデーション(International Sustainable Seafood Foundation、ISSF)は、違法・無報告・無規制(IUU)漁業による国産と輸入水産物の流通を阻止する新法の導入に関して、日本政府に祝意を表します。この日本の立法措置は、IUU漁業の撲滅に向けた重要な推進力であり、政府と業界のさらなる協力に向けた重要な一歩であると考えられます。

SeaBOS会長のテレーズ・ログ・バルグヨルド氏は次のように述べています。「私たちは、IUU漁業を世界的に排除するための前向きな一歩である改正漁業法と今回の新法の導入に関して、日本政府に祝意を述べます。強力な法律と信頼できるトレーサビリティプログラムは、IUU漁業の生産と流通を止めるのに役立ちます。日本の新たな行動は、「持続可能な海洋経済の構築に向けたハイレベル・パネル(以下、ハイレベル・パネル)」<sup>1</sup>の成果に沿ったものでもあり、私たち連合もIUU漁業を終わらせるためにこれからも努力して参ります」。

私たち3つの連合は、IUU漁業を世界規模で撲滅することによってのみ可能となる、サステナブル・シーフードの生産確保のため、引き続き政府と協力していきます。水産サプライチェーンにおける企業は、生産または調達する水産物のトレーサビリティを積極的に確保し、今回のような政府の行動を支持することが重要です。

「業界と政府が協働すれば、IUU漁業に従事している人たちは、水揚げも販売もできなくなるでしょう」と、GTAのエグゼクティブ・ディレクターであるトム・ピッケレル氏は話します。

[前回の声明](#)では、「違法な漁業、報告されていない漁業及び規制されていない漁業を防止し、抑止し、及び排除するための寄港国の措置に関する協定(PSMA)」の批准と実施、あるいはPSMAと整合性のある措置の実施が各国政府にとって重要であると言及しました。さらに、各国政府は、国際的に操業しているすべての船舶に関する情報をFAOのグローバル・レコード<sup>2</sup>に確実に提供し、旗国と寄港国との間で船舶データを適時交換し、効果的に措置を取ることが求められます。

2021年のアジア太平洋経済協力(APEC)会議は、IUU漁業の撲滅という目標に関して合意形成する貴重な機会であると認識されています。

「IUU漁業が私たちの水産業界、経済、食糧安全保障に与える脅威を終わらせるために、日本政府がハイレベル・パネルの加盟国やAPECの他の太平洋諸国の政府と共に、協働して取り組むことを私たちは望んでいます」とISSFのスーザン・ジャクソン会長は述べました。

\*1

「持続可能な海洋経済のためのハイレベル・パネル」では、菅義偉内閣総理大臣が他の13ヶ国の首脳とともに、すべての政府に対し、透明性を高め、監視・管理・調査を強化し、PSMAを実施することによってIUU漁業を撲滅するための行動をとるよう、また、乱獲とIUU漁業を推進する補助金を禁止するよう呼びかけました。

<https://oceanpanel.org/>

\*2 (訳註)

The Global Record of Fishing Vessels, Refrigerated Transport Vessels and Supply Vessels (筆者訳: 漁船、冷凍船、輸送船、補給船の国際記録)の略。FAO(国連食料農業機関)による国際的なイニシアチブ。IUU漁業撲滅のために、船舶やその関連活動に関する国家当局からの認証データを迅速な方法で利用可能にすることを目指している。

<https://bit.ly/3uLaUwj>

---

## 共同声明の参加組織

Global Tuna Alliance (GTA)は、小売企業とマグロのサプライチェーン会社で構成される独立団体です。マグロ漁場のための漁獲戦略、IUU漁業に由来する製品の回避、透明性や環境の持続可能性の改善、マグロ漁業の人権運動推進の実現に取り組んでいます。GTAはカツオ・マグロ類2020トレーサビリティ宣言(the Tuna 2020 Traceability Declaration)に基づいており、66の企業が署名しています。意思決定者やサプライチェーン活動への直接的な関わりを通して、方針変更に活かすために商業的なパイニングパワーを利用しています。

<https://www.globaltunaalliance.com/>

担当: トム・ピケレル tom@globaltunaalliance.com

The International Seafood Sustainability Foundation (ISSF)は、水産企業、漁業の専門家、科学者、環境団体、漁業コミュニティからなる国際的な連合体です。マグロの長期的な保全、集魚装置(FAD)の管理、混獲の削減、健全な海洋生態系、漁獲能力の管理、違法漁業の防止のために科学に基づいたイニシアチブを促進しています。世界のマグロ漁業が、海洋管理協議会の認証基準を条件なしで満たすよう、世界のマグロ漁業を手助けすることがISSFの究極の目標です。ISSFに参加している26企業は、世界のツナ缶加工能力の大多数を占めています。

<https://iss-foundation.org/>

担当: メリー・セストリック msestric@iss-foundation.org

Seafood Business for Ocean Stewardship (SeaBOS)は、天然漁業、養殖、飼料生産の業界を横断する、科学者と水産企業間による唯一の協働組織です。持続可能な水産物の生産と海の健全さに向けて、世界的変革を先導しています。この協働は、ストックホルム大学のストックホルム・レジリエンス・センターによってまとめられました。SeaBOSの参加企業は、世界全体の水産物の10%以上を生産し、600を超える子会社により構成されています。

<https://seabos.org/>

担当: ソフィー・ヌーナン sophie.noonan@skretting.com もしくは ストゥーレ・シモンセン sturle.hauge.simonsen@su.se

(仮訳)株式会社シーフードレガシー